

事業所職員向け

児童発達支援自己評価表

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	◎		十分なスペースを確保している。
	2	職員の配置数は適切であるか	○		送迎時に人手が不足気味。今後の課題。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	○		部屋の使い分けをわかりやすいよう視覚情報で提示している。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	○		活動に合わせて部屋の使い分けをしている。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	◎		パート職員含めて毎日振り返りシートを記入している。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	◎		年1回のアンケートを実施している。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	◎		昨年度より実施。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか		▲	第三者評価は実施していない。今後の検討課題。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	◎		月1回の職員全体会議に学習の時間を設けている。
適	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	◎		初回アセスメントの他、事業所書式のサポートブックを毎年記入して頂いている。
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか		△	一部導入したが広められず。今後の検討課題。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	○		結果的にそうになっているがガイドラインを意識するまでは至らず。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	○		実施されている。

切 な 支 援 の 提 供	14	活動プログラムの立案をチームで行っているか	○	定期的にミーティングでアイデアを出し合って見直しをしている。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○	定期的にミーティングでアイデアを出し合って見直しをしている。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成しているか	○	一人ひとりの意欲が引き出せるよう意識している。集団活動に偏重しないよう意識している。
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	◎	始業前の打ち合わせの他、紙での活動計画に目を通してサインするよう指示。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	◎	振り返りシートを毎日記入している。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	◎	特に重要なことはクラウド上で共有している。
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	○	通常のルーティンの中で実施している。

関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	◎		原則的には児童発達支援管理責任者が参加している。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	○		必要に応じて連携をとっている。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか			該当無し。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか			該当無し。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか		△	一部に留まる。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか		△	一部に留まる。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか		△	りんくす名古屋が主催共催する研修には積極的に参加している。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか		▲	現状そこまで手が回らないのが実態。その余裕を持てることが目標。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか	◎		瑞穂、昭和両区の児童部会に参加している。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○		送迎時には必ずひと言を実施している。
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っているか		▲	個別に書籍やグッズを紹介することにとどまる。	
保	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	◎		契約時に説明をしている他、随時質問を受けている。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	◎		通常の業務として実施している。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○		「定期的に」までは至らず。

護者への説明責任等	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか		▲	保護者会はないが、気楽に語れる場があれば良いというお声があった。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○		この間に苦情は無いが忘れ物が多発した場合などには防止策を検討するなどしている。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○		現在はFacebook中心に発信している。
	38	個人情報の取扱いに十分注意しているか	◎		書類の廃棄は処理業者も利用している。
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	◎		資格情報を重視している。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	◎		近隣にお誘いのチラシを配布するなどしている。

非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	○		防災週間には災害伝言ダイヤルの体験利用も実施している。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○		実施されている。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか	◎		保護者に事業所書式のサポートブックを毎年記入して頂いている。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか		△	家族からの指示に留まる。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○		特に重要なことはクラウド上にて共有。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	◎		ニュース記事を共有するなど緊張感を絶やさないようにしている。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか	○		組織的な共有が不十分。